

緑防犯協会 常任理事会 報告

- 平成30年2月15日 10時30分～11時45分
- 於 緑警察署講堂
- 9名出席（14名中）

議題

(1) 刑法犯発生状況報告 (落合 課長)

※発生状況の前に、落合課長から臨時で常任理事の方々にお集まりいただいた主旨について説明がありました。

- ・ 昨年の振り込め詐欺の発生が、前年（平成28年）から大幅に増えたことを受け対策を立てたい。・・・区内の発生はH29年 65件（約1億9578万円被害）
H28年から41件も増加。
- ・ 見える警戒の一つとして、防犯協会のお金で横断幕を作った。現在、警察署の入り口自動ドアの上部に掲示してあるが、取り外せるのでパトロールやキャンペーンの際にも使いたい。
- ・ 先日、本部からの応援（36名/日）でコンビニのATM等に固定配置し、声掛けをするという施策を行った。4日間連日。その間、被害発生が1件もなかっただけでなく、前兆電話（振り込め詐欺に繋がるお金を要求する前の電話）の報告もなかった。つまり、犯人は警察官が居ることをどこかで見ているということだし、見せる（見える）警戒が大事なこともハッキリした。
- ・ 対策は『ALL緑!』で、区内で犯行を起こさせない状況・環境を作りたい。
- ・ 真に効果ある施策を提案したい。その検討のために集まっていたいただき、その施策の為に、防犯協会のお金を使わせて頂けないかという相談をしたくて集まっていたいただいた次第。
- ・ 具体的には、毎年積み立てている“つどい準備金”の一部を特殊詐欺対策として使えないだろうかというご相談。

※ここから発生状況報告（1ページ目参照）

- ・ 資料1ページは1月末現在の数字。
- ・ 全体的には今のところは昨年と比べてマイナス。このままマイナス推移でいきたい。
- ・ しかし、振り込め詐欺は昨日現在で4件。被害額は540万円のプラス。
（資料は1月末時点なので、発生1件）
- ・ 検挙もしている。捕まるのは受け子や出し子と呼ばれる末端の者たち。現在そこから突き上げ捜査を行っているところだが、なかなか上の組織まで行きつくのは難しい。
- ・ 昨年の振り込め詐欺65件の種類別の発生状況は、次のとおり。
 - ①オレオレ詐欺：23件
 - ②カード手交型：22件
 - ③還付金詐欺：15件
 - ④架空請求詐欺：5件

上記は被害届が出た分。警察に連絡はしたが被害届は出さなかったり、連絡自体されていない分も含めると、3割増し以上になる。

- ・ 現在は金利がほとんどつかないためか、たんす預金をしている人が多く、オレオレ詐欺と架空請求詐欺はそこを狙っている。
- ・ 還付金詐欺は、声を掛けられない無人ATM等に被害者をつりだし携帯電話で指示しながら振り込ませる手口で、被害者は自分の口座に振り込まれる操作だと思っている。
- ・ キャッシュカード手交型は自宅にカードを取りに来る。だましの電話がかかってきてから平均2時間以内には犯人によりお金を引き出されてしまう。
(短い時間で被害に遭う)
- ・ どの手口も登場人物が次々に多数でてきて、「何か変だな」と思いながらも騙されてしまう。

(2) 振り込め詐欺対策について

◆落合課長・天白係長からの話として

- ・ オレオレ詐欺・架空請求詐欺は、たんす預金が狙われる場合もあるが、たんす預金がない場合に金融機関でお金を下ろす必要があり、その際に金融機関の人に声を掛けられる。金融機関には警察から「高額の引き下ろしの際には通報してください」とお願いしている。
- ・ また、還付金詐欺は声を掛けられない無人ATMなどを指定して振り込ませるので、人に止めてもらうことが難しく多発しやすい。が、ATMでの振り込み額には制限があるので額としては50万円未満のことが多いし、還付金の性質から時期的なものでもある。
- ・ 横浜銀行や横浜信用金庫のように、各金融機関が振り込み制限を設けている場合もある。
- ・ しかし、キャッシュカード手交型は自宅に犯人が取りに来て言葉巧みに騙し、警察や家族に相談する隙を与えないため、被害者が信じてしまったら止めるのが難しい。
- ・ このキャッシュカード手交型を防ぐための対策として、例えば・・・
戸建のお宅の玄関に『振り込め詐欺撲滅宣言』等と書いたシールを貼ってもらう。
緑区内の戸建ての多くにこのシールが貼られていることで、緑区内の人々は振り込め詐欺に対して意識が高い、緑区内での犯行は難しいと思わせるような環境を作りたい。
- ・ 例えば上記のような施策を行うに当たって、毎年、防犯協会で積み立てている“つどい準備金”の一部を特殊詐欺対策費として使わせていただけないか。

◆みなさんからの話として

- ・ 高齢者ばかりが狙われている訳ではない。たまたま高齢者が昼間、家にいるから引っかかっているだけだと考えるべき。同様に、女性がひっきりやすい訳ではない。たまたま女性が家に居て電話を受けることが多いだけ。
誰でも騙される可能性はあることを周知しないとイケない。
- ・ 一人一人が責任者、自分も騙される可能性があるという意識を持たせたい。

- ・ シールを貼る方法もあるが、「今、前兆電話が掛かっている」という連絡がきた際に、各戸が『旗』を玄関先に出すようにしてはどうか。
 - ・ 各自治会の会合等に警察官に来てもらい、しつこいくらいに何度も話をしてもらった方がいい。
 - ・ 自治会内団地には階段ごとの掲示板がある。そこに注意喚起等の掲示をしている。これは効果があるように思う。(みんなが良く読んでいる)
 - ・ 重要なことは回覧では周知できない。各戸配布にしてないとしっかり見てもらえない。
 - ・ 「非通知の電話には出ない」という指導もするべきだ。
 - ・ 東本郷内を走っているバスのバス停には、掲示できるスペースがある。A4サイズくらいのチラシなら貼ることができる。
 - ・ 金額的にはどの手口の被害額が多いのか？
- オレオレ詐欺は100万～300万円くらい。
 還付金詐欺は100万円以内が多い。
 架空請求詐欺は300万～数千万円くらい。
 キャッシュカード手交型は、渡したカードにいくら入っているかによるし、被害に気付くまでの時間にもよる。被害者が気付いて口座を止めるまで何度も下ろされてしまう。平均100万円くらい？
- ・ 高齢者は、留守番電話の設定もわからない。設定できて留守録が入っていても聞き方がわからないし消し方がわからない。従って進んで留守番電話設定するとは思えない。
 - ・ 警察にお願いするだけではなく、各自治会でも対策を立てて自助努力をするべきだと思う。
 - ・ 現在の『つどい準備金』とは、10年以上前に防犯のつどいを2年に1回開催していたので、その名残。当時は芸能人を呼んだりしていたため積み立てが必要だった。芸を見ても犯罪はなくならないということで、今は開催していない。つどい開催を止めた時に、名称を変えれば良かったのだと思う。次年度は検討しましょう。

★結論として、以下のようなことが決まりました

- ① 主旨、方針に賛同。
- ② 使ってもいい金額の上限を決める。 ⇒ 45万円に決定
- ③ 施策の内容については、警察に一任する。
- ④ 何かを作成したら、世帯数に合わせた配分にする。
- ⑤ 今回は作れる範囲でやってみる。成功したら他団体も巻き込んで広く展開する方法もある。
- ⑥ 効果があったかどうかの検証がてきると良い。
- ⑦ 今回の施策を実行する際は、大々的に広報して「緑区の住民はこれだけ意識が高いのだ」ということをアピールする。

以上